

「タイムスリップ」で「なぜ解き」

大阪市 公立中学校教諭

1. 「タイムスリップ」のくふう

教科書口絵2には「歴史の舞台にたって考える歴史」を方針に「歴史の勉強は、考える・なぜを解く歴史」で、そして「時代を映したイラストを用意し」「考え方や調べ方を学ぶためのくふうもしっかりもりこんでいる」と書かれている。



各時代の冒頭にある「タイムスリップ」のイラストはその趣旨に従い2ページにわたって設定され、時代の特徴的なできごと・ヒト・コト・モノがていねいに描かれている。これを一見しただけで「人々の生活舞台」がイメージをもって理解できるようになっている。しかも、多くの文献資料をもとにして描かれているので、その時代を映し出す場面としては魅力的なページとなっている。

2. 「タイムスリップ」でなぜ解きへ

この「タイムスリップ」の描写を「なぜ解

き」で読み解くことは、生徒にとって歴史を楽しく学べるし、教科書を活用する趣旨にも合致する。また「歴史の舞台にたって考える」授業の改善にもつながるだろう。

さて、教科書p.86～87の「タイムスリップ！近世①」16世紀のイラストは、戦国時代から江戸時代初期の新しい秩序がうまれたところで、武士は城下町に住み、人々は村と町とに分かれ定められた職業を営んでいる様子である。

またそれらの人々に関するヒト・コト・モノの情報が濃縮されている。このような内容のイラストを「なぜ解き」の授業にするため、できれば4人から6人の班別学習にしたい。

各班に、描かれている人々を1つまたは2つ(の身分)に注目させ、その人の役割や立場、仕事内容、服装、道具などを読み解くように課題を出す。与えられた課題に取り組む中で、班内で話し合った内容や気づいたこと、疑問に感じたことなどを簡単なワークシート(下を参照)に記録させる。それをもとに班別に発表させ、読み解きの交流と対話を図り、この時代の特色を理解する。

見本例 タイムスリップ 近世① [16世紀]用 ワークシート

人物の身分	イラストの内容・場所・活動	班員氏名		
		服装持ち物	コト・モノ	気づいたこと(疑問点)
武士	① 検地(手前と真ん中)	袴 羽織 編み笠 二本脇差	検地尺 縄 帳面・筆	検地尺で、どのように測ったのだろうか？
	② 刀狩(右斜め上)			
	③ 茶城の音請(真ん中上)			

課題1 どのような人々が描かれているのだろうか？

まずイラスト全体を見て、描かれている人の身分や役職、職業等を問い、自由に答えさせる。「武士」「農民」「(築城の石を運ぶ)人夫」「商人」「皮を剥ぐ人」「子ども」「僧侶」「女」などが出されるであろう。たとえば、それらを一覧にして板書し、各班に調べる対象を振り分け(選択させる)て、課題2へ進む。

課題2 それぞれの人々は、どのような活動(仕事)をしているだろうか

各班で担当した人々を「どこで、どのような仕事」をしているのか、また服装や使用している道具、推測した活動内容など班内で話しあってワークシートに記録させる。

次に具体例をあげる。

例1 武士および家臣(家来・使用人)

武士は、当時の支配者層である。ここでは、とくに支配者層としてさまざまな仕事を行っている武士の姿に気づかせたい。たとえば戦いが終ると国内の治安と年貢を取り立てるために国内政治を行っている姿などである。

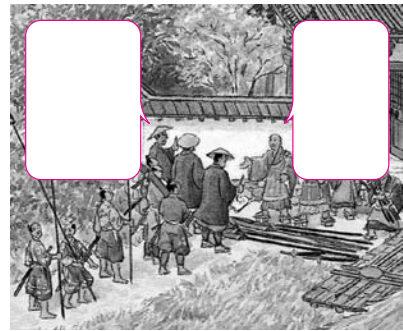
①手前では、2人の役人が村絵図を前に立っている。右は扇子を手に持ち、左は農民に年貢枡を差し出している。2人とも編笠に二本差しで家来を連れている。村絵図を持って、何のために厳しい口調で年貢枡を出しているのかを問い、考えさせる。

②中央に見える水田では、検地尺を持って調査をしている武士および家来たちがいる。検地はどのような方法で行ったか、教科書p.96を参考にして検地尺の使い方を想像させる(不定形の土地は、長方形に置き換えて計算した)。

③寺では、刀狩を進めている武士の姿が見え



る。刀を前にして武士と僧侶がどのような対話をしたか想像させ、それから刀狩の意味(身分の統制・寺の武装解除など)と僧侶の立場を考える。



④築城や基礎石垣を造るのに人夫をつかって



石の運搬を指揮する馬上の武士が見える。

その左手に建築中の屋敷もあり、城下町が作られていく様子が読み取

れる。平時における武士の役割と、これらの人夫はどこから来たのかを問う。

例2 農民および子どもたち

武士と同様に多くの農民の姿が見える。当時の人口の80%以上は農民層である。彼らの暮らしの様子を理解させたい。彼らの行動と

服装・住居・生活ぶりなどにも注意する。

- ①手前の農民は、かしまって役人から検地枘を受け取っている。それを受け取る姿勢・表情・服装などから、どのような気持ちであったか考える。また農家の屋根はかや葺で、畜舎もあることなどから生活舞台の背景も読み取る。
- ②検地を記録している武士のそばに、その様子を見に来ている農民一家の姿がある。農民は何を話しているのだろうか。
- ③右中央には農家の敷地内でわらを組んでいる農民の姿が見える。農業が終わったあとの農家の仕事とは何かを問う。

例3 かわらで皮革を扱う人

河川敷は、右の土手より低くなっている。橋がかけられ、死んだ動物を運ぶ人、河川敷で皮を剥いで加工する人の姿が見える。このような人々は被差別民として厳しく身分統制されたが、一方では処理の権利を得て、皮を生産し、太鼓を制作するなど日本の文化と皮革産業を支えた。教科書p.74のコラムを参考にして、被差別民の生活の様子や身分制について考えさせたい。



例4 女性と子ども

- 女性と子どもの姿も描かれている。この姿と役割から、当時の女性の地位を理解する。
- ①子どもの世話をする女性は、手前の農家では、鶏を追う女の子の背後にいる姿であり、他では幼子を背負っている姿などである。

また、河原では皮作りを手伝っている女性がいる。イラストの右側には頭に何かを載せて女性がおり、何を載せているかを聞きたい。そして、これらの女性たちがおかれた立場についても考える。



- ②鋤を担いであぜ道を歩く子ども（横の畑には収穫後と前の畝がある）、石運びの人夫を見る子ども、畜舎に隠れて親の姿を見る子どもなどがいる。これから当時の子どもの過ごし方を今と比較して理解する。

課題3 その他、当時のモノを探そう

人物以外に、井戸、荷車、石を運ぶシュラ（修羅）、稲架（はさ）、土塀、肥だめ、廃城などのモノが見て取れる。これらの意味（なぞ）も上記と同様に「なぜあるのか」「どのように使うのか」など追求して、歴史舞台にたった「学び」を深めたい。



3. 最後に

班で読み解きの交流と対話を行い、新しい疑問や気づきへの授業にすることができれば、生徒の学びとなるであろう。このような授業展開が可能なタイムスリップのイラストは、すぐれた教材なのでおおいに利用したいものである。

